

自 己 評 価 表 (1 枚 目)

松山北高等学校中島分校

学校番号 (22)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）			カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）		
(1) 自分の良さや可能性を認識し、他者の多様性を尊重する心と感謝の気持ちを育成します。 (2) 自分を律し、自分の夢の実現に向けて未来を切り拓く力や態度を育成します。 (3) 探究活動を通して、他者と協働して地域の課題を解決し、持続可能な社会を創造する力や態度を育成します。			(1) 少人数かつサポート体制を充実させた指導により、「わかる授業・身に付く授業」を実践し、一人一人の確かな学力の定着を図ります。 (2) 生徒の多様な進路希望に対応した選択科目や魅力ある学校設定科目を設定するとともに、ICT活用能力を育成する教育を行います。 (3) 中島地域の豊かな自然や人的・物的資源を最大限に活用した豊富な体験活動を行い、全ての生徒が活躍できる教育活動を実践します。		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
シグ ン デ ィ ン グ ・ ユ ニ バ ー シ ティ ・ ポ リ シー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じているかというアンケートに対して、5段階評価で平均4.1という数字が得られた。事務職員を除くと全員が4以上の評価をしており、教員が生徒の成長を感じながら指導ができている。	引き続き基本的生活習慣の定着を図り、安定して登校できたうえで、学習や行事、探究活動に参加することで自己肯定感を高め、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
	特色ある学校づくり	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成するとともに、授業において基礎・基本の定着を図る。 学校評価「学校では基礎基本が定着できるように、わかりやすい授業が行われている」 A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:85%以上 E:85%未満	C	生徒アンケートの結果を見ると、適切な課題や家庭学習習慣の項目がやや低かった。生徒評価は平均4.1と悪くないが、C評価となったのは、数値基準の設定が厳しかったことが関係している。	個別学習に対する項目では、生徒と教員の結果に開きがあり、生徒の自己評価が低かった。生徒の自信につながる学習につなげていく必要がある。数値基準は見直す必要がある。
		中島の人的・物的資源を最大限に生かし、地域と連携・協働する取組を継続する。 学校評価「学校は、地域社会と連携した活動やボランティア活動を活発に行っている。」 A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:85%以上 E:85%未満	A	中島でNPO活動をしている方と協力し、新規に県外の高校生交流活動を実施した。また、総合的な探究の時間は、3年間を見通した系統的なカリキュラムを行い、中島の地域理解に努めている。	総合的な探究の時間では、持続可能かつ発展性を持たせられる体験活動の創出に尽力し、改善点があれば柔軟に対応する。
		学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動を積極的に発信する。特にホームページの「なかぶる日記」は毎日更新して、分校の様子を発信する。	A	学校案内は見やすい配置で分かりやすく、できるだけ多くの画像や動画で視覚的に訴えるよう工夫した。HPの学校ブログも随時更新している。	学校行事における生徒の取組について、リアルタイムで発信していきたい。生徒が作成するVRツアーの動画もHP上で公開していきたい。
	保護者・地域との連携	年間10日以上上の教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A:10日以上 B:9日 C:8日 D:7日 E:6日以下	A	公開授業を6月と11月に合計10日実施したほか、体育大会や文化祭も保護者に公開した。	公開期間以外の行事に関しては、保護者が参加しやすい日程を考慮し、学校での活動を見られる機会をさらに増やしたい。
		地域での奉仕活動や交流活動を年間10回以上実施する。 A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:6回以下	A	忽那諸島の清掃活動や島内のイベント参加、高齢者に向けた年賀カードやプレゼントの作成等、ボランティア活動を中心に32回実施した。子どもから高齢者まで多様な年齢層と交流を持つことができた。	地域の方の御理解・御協力のもと活動を実施することができている。人の役に立つことへの喜びを感じ、感謝の気持ちを持つことのできる生徒の育成を目指し、今後も精力的に活動を展開していきたい。
学 習 指 導	教科指導の充実	一人一台端末の活用と個に応じた指導の工夫・実践により、分ける授業づくりに努め、生徒による授業評価4.0以上を目指す。 A:4.0以上 B:3.7～3.9 C:3.4～3.6 D:3.1～3.3 E:3.0以下	A	生徒の学校評価において学習指導については4.0以上であった。また課題の与え方や家庭学習習慣の定着に関する項目で昨年より0.5ポイント評価が上昇した。	授業内容の精選や指導の工夫に努め、大学進学希望者や成績不振者のどちらにも必要な学力を身に付けられるようにしたい。
		商業科目選択生徒の各種検定試験において、3級以上の資格取得率90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	B	3年生は支援が必要な生徒以外、3級以上の取得ができた。2年生も検定取得に挑戦し、成果を上げてきている。	各学年、講座全員で各種検定に取り組む雰囲気づくりに努める。生徒の能力や個性に応じて、上級の資格にも挑戦していく意欲を高めていく。
	家庭学習の充実	学習に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題により、家庭学習1日2時間以上を確保する。 A:120分以上 B:119～100分 C:99～80分 D:79～60分 E:59分以下	B	調査期間中の家庭学習時間の平均は115分で、目標数値である120分にわずかに届かなかった。	1・2年生の学習時間が少なかったため、調査期間中の自習時間の活用や提出物等の課題提出の徹底に努めたい。
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。 A:95%以上 B:94～90% C:89～85% D:84～80% E:79%以下	B	2学期末までの出席率は、1年生93.8%、2年生93.3%、3年生95.4%で、全体では94.1%であった。	例年、3学期に欠席が増えるため、担任を中心に教職員全体で生徒に寄り添い、登校意識を高めるよう指導する。
		自分から気持ちの良いあいさつができる。時間を守る、けじめをつける、忘れ物をしない、清潔感のある身だしなみを心掛ける、清掃に真面目に自主的に取り組める生徒を目指す。	B	身だしなみの規定を見直すことで、身だしなみ指導で指導を受ける数は減少した。時間を守る等の生活態度は、改善が必要。清掃に関しては、「校内美化」の意識を持って積極的に取り組む姿勢が見えられた。	学校と保護者との連携を常に図りながら、生徒に対して粘り強く指導を行う。また、基本的生活習慣がしっかりと身に付けられるように、学年団を中心に教員で連携し、継続して指導をしていく。
		生徒指導に関して、保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の緊密な連携を図る。	B	マチコミメールなどを活用して、日頃から保護者とコミュニケーションを密に取ることで信頼関係ができた。また、情報モラルについても外部の機関を利用して指導の徹底を図っている。	個に応じた生徒指導をしつつ、常に生徒の小さな変化を見逃さず、教員間で連携をとりながら、心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築き、早期発見・早期対応を心がけて取り組む。
	個人面接の充実	面接を学期ごとに一人2回以上（年間6回以上）を行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	B	各学年による定期的な面談のほか、生徒に少しの変化があればリアルタイムで話を聞く体制ができた。また、支援員が加わることで、さらにその取組が充実している。	個に応じた生徒指導を行いつつ、常に生徒の様子を観察するとともに、早期に心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築く。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

自 己 評 価 表 (2 枚 目)

松山北高等学校中島分校

学校番号(22)

生徒指導	交通安全指導の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通ルールの遵守に努めさせ、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	交通ルールの遵守とマナーの向上に努めた結果、交通事故はゼロであったが、自転車のヘルメット着用していない生徒が数名いた。自転車保険の加入率は100%であった。	来年度からの青切符制度導入に向け、さらに交通安全意識を高め、交通ルールの遵守とマナーの向上に努め、交通事故ゼロを目指す。時期や季節等により生徒に対して常に交通安全について呼びかけを行う。
	教育相談・特別支援教育の充実	教職員及び保護者との緊密な連携と情報の共有を常に図り、一人一人の個に応じた支援体制を整えるとともに教職員の対応力を高める。	A	支援員や外部の関係機関にも協力を得て、学校の対応力をしっかりと高めることができた。また、教員間で共通理解を持って指導した。	保護者や外部の関係機関との連携をさらに図りながら、一人一人の現状をしっかりと把握し、教員間での共通理解を持って、改善と検討を早期に行う。
進路指導	進路指導委員会の充実	担任による進路面談後に進路研究会を全学年、各学期ごとに実施する。また3年生においては適宜追加実施し、早期に個別に最適な進路指導を行う。	A	学期毎に担任による進路面談を丁寧に行い、進路研究会を通して生徒の進路希望を全教員で共有することができた。推薦についても進路指導委員会を通じて決定し、学校全体で進路実現を目指すことができた。	担任が進路面談を実施する際に、進路研修課から進路に応じた有用な資料を提示できるように、引き続き、担任と連携を取っていきたい。
	進学・就職指導の充実	保護者との情報交換を丁寧に行い、個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、希望者の進学・就職率100%を目指す。 A:100% B:99～90% C:89～80% D:79～70% E:69%以下	B	生徒・保護者との連絡を丁寧に行い、個に応じた指導を行うことができた。しかし、就職・進学ともに全員が第一志望を実現することはできなかった。	就職・進学率100%を実現することはできなかったが、後手にまわった感が否めない。先手先手で、生徒の特性を把握した適切なアドバイスを行っていきたい。
		進路指導に関して、担任及び進路課長による面談を充実させ、面接や小論文などの受験指導を丁寧に行う。生徒と保護者に対して適切な情報発信を行い、進路実現に向けて家庭と学校の連携を図る。	B	面接や小論文などの受験および受検指導を丁寧に行うことができた。前年度の反省を生かし、生徒と保護者に対して適切に情報発信を行うことができた。	指導は丁寧に行うことができ、結果に結びついたが、生徒自身がスケジュールを自分自身で把握するなどの当たり前の指導が不十分だった。
特別活動	特別活動の充実	部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒の育成を目指すと共に協動的に取り組む態度を身に付けさせる。	A	愛顔創造部、アートLab部、茶華道部において、大きな成果を上げた。どの部も短い時間の中で主体的、積極的に創意工夫して活動している。	短時間の部活動の中で主体的・積極的に創意工夫と努力で、部員全員が一丸となって取り組む態度を身に付ける。
		ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動等を通して自主的・主体的・協動的に取り組む態度を身に付けさせるとともに、生徒が充実感や達成感を感じられるようにする。	A	生徒会を中心に全員が一丸となって1年間を通して活動することができた。生徒一人一人が自分の役割を自覚して活動している。また、他校との交流も積極的に取り組んだ。	現在の学校行事などを常に見直し、生徒たちの意見も取り入れながら、時代に応じた新しい活動の創出に積極的に取り組む。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	事前の資料配布や検討会及び研究授業などを通して、人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	B	今年度は教員の外部研修への参加をお願いし、教員の資質向上につながったと思うが、まだまだ学校全体としての統一感に欠けた面があった。	事前の検討会を実施するのは時間的制約があり難しいと感じたので、職員会議などを利用して、職員研修の時間を増やしたい。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、校内の人権啓発活動による人権意識の高揚を図る。	B	人権委員会活動など人権啓発活動を行った。昨年度よりも生徒の活動が増えたが、まだまだ生徒は受け身の状態であった。	もっと生徒が活躍できる手段を考え、委員会活動の充実を図り、生徒から人権啓発が発信できるようにしていきたい。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	A	生徒たちは環境美化に対する意識を持ち、清掃等の時間では校内の隅々まで最後まで取り組むことができた。今後も継続していきたい。	生徒たちを適材適所に清掃配置し、教職員と生徒が一体となって共に環境美化活動に積極的に取り組む。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。また、日頃から校内美化に努める姿勢をもたせる。	A	毎月の芝生・校内清掃活動及び、職員校内清掃作業等により、芝生や校庭の行き届いた管理ができた。	季節・天候を考慮しながら効率よく実施するとともに、教職員、生徒共に協力し、継続して環境整備に取り組む。また、校内の除草等も常に行う。
	保健管理の充実	実践力につながる「保健だより」を発行し、健康管理の徹底を図る。また、積極的に食育の推進に努める。	A	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を図り、食育の推進に努めることができた。登校時、校舎の入口で健康観察を毎日実施した。	毎月の「保健だより」を発行し、その時期に応じた適切な内容を掲示することで、健康管理の徹底を常に図る。毎日、登校時に校舎の入口で生徒の様子を観察する。
	危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と定期的な点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。また、日頃から防災に関する意識を常にもたせるようにする。	A	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努めることができた。また、校内点検を定期的に行い、危険箇所等の把握に努めた。	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。さらに、防災に対する意識を高めさせる。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の負担軽減のために、ICTを活用した情報共有による印刷業務の軽減、仮想デスクトップ方式によるテレワークの積極的な活用、オンライン会議による時間の有効活用を図る。	A	学校行事の振替休日を適切に配置することで、教職員の負担軽減につながった。ミラ임을有効に活用し、勤務状況や学校行事の把握がしやすいように努めた。	仮想デスクトップ方式は使い勝手がよく、有効であると考え。テレワークの活用をさらに広め、ワークライフバランスの向上に努めたい。
	職場環境の整備	身の回りの整理整頓を心掛け、働きやすい職場環境づくりに取り組み、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	A	「教職員が心身の健康を損なうことなく楽しく勤務できる職場環境である」の教職員評価が2年続けた上がっており、良好な勤務環境が築けている。	老朽化した施設の改善や、ICT機器の導入をすすめ、教職員の要望も聞き入れた環境整備を行いたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。